

## 1. 調査目的等

小学校1年生から6年生の児童の学力を把握・分析し、学校における教育指導の成果と課題の検証やその改善に役立てる。

## 2. 学校ごとの指標

- 教科総合(国語・算数)の学校平均偏差値50以上の維持
- 全学年において、アンダーアチーバー児童の割合10%以下

## 3. 指標にむけての取組

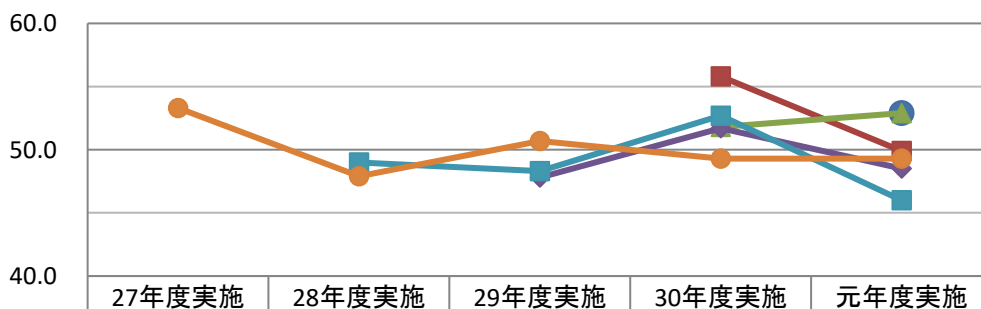
- 「見通し」「自力解決」の段階における「書く活動」「話し合う活動」の位置付け
- 振り返りの場面における形成的評価の実施
- 基礎基本の繰り返し指導の計画的な実施(診断テスト等対策指導を含む)

## 4. 調査結果

※学校平均5年間の推移 (標準偏差値50に対して)

年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
本校(A)	52.4	50.7	50.2	51.8	50.1
嘉麻市(B)	50.8	50.7	51.5	51.4	51.1
(A) - (B)	1.6	0.0	-1.3	0.4	-1.0
標準偏差値との差 (A) - (50)	2.4	0.7	0.2	1.8	0.1

## 各学年の推移



## 5. 各学校における分析

- 教科総合(国語・算数)における学校偏差値平均50.1であり、平均偏差値50以上を維持することができた。
- 偏差値平均50以上の学級は38.9%(7学級/18学級)であり、依然として学年・学級間に学力差がある。教科別では、国語が38.9%(7学級/18学級)、算数が66.7%(12学級/18学級)であり、算数においては取組の効果がみられる。
- アンダーアチーバー児童は全校で21%であり、目標の10%以下とはならなかった。学年別では、1年生が7%と10%以下を達成できたが、2年生以上では10%を超える結果となった。
- 算数で偏差値平均50以上となった学級は、66.7%(12学級/18学級)であった。このことは、基礎基本の繰り返し指導を計画的に行ったことが効果的であったと考えられる。
- 1・3年生では、偏差値平均50以上を達成することができた。このことは、習熟度別少人数分割授業を計画的に行ったことによる振り返りの場面での形成的評価が効果的であったと考えられる。
- 3・4年生においては、授業における「書く活動」の位置付けにより、児童が自分の考えを「書く」ことへの抵抗感が減り、最後まで問題に取り組もうとする態度を身に付けさせることができているという点で効果があった。このことは、アンダーアチーバー児童が3年生で14%、4年生で13%であったことからもうかがえる。

## 6. 各学校における今後の取組

### 【継続】

- 毎時間の終末に振り返り活動の位置付け(形成的評価の重視)
  - ・算数科における習熟度別少人数授業の計画的な実施と複数体制による指導
- 朝の活動を活用した個別指導
  - ・家庭学習と関連付けた解き方の解説と書き直す時間の確保、教材集等の活用による発展問題への挑戦

### 【充実】

- 毎時間、「書く活動」「話し合う活動」の位置付け(国語・算数)
  - ・理由や根拠とともに自分の考えを「書く活動」の位置付け(見通し、自力解決の段階を中心に)
  - ・自分の考えとの共通点や相違点を見出したり、自分の考えに付加、修正を加えたりするための「話し合う活動」の位置付け
- 家庭学習の習慣化
  - ・質・量の系統性をもたせた稲築西小学校家庭学習系統表の確実な実施と見直し(課題提出率95%、取組時間「学年×10分+10分」達成児童80%)

### 【修正】

- 学力の基盤づくり
  - ・児童が目標を設定し、達成感を味わう活動の位置付け(学期2回)
    - ※ 児童質問紙「諦めずにいろいろな方法を考えていますか」  
「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」全国比-5%以内

## 7. 嘉麻市教育委員会としての今後の取組

- ◎今後の取組を具体化し推進することができるように、特に、次の3点について指導助言及び支援を行うとともに、周知徹底できるように継続的に指導する。
  - ◆嘉麻市学力向上推進委員会に基づく学力向上検証改善委員会を開催し、単元テスト評価後の個に応じた習熟度別指導を取り入れた指導方法の工夫を推進する。そのために、習熟度別指導の単元づくりや個に応じた補充プリントの活用の仕方について指導する。
  - ◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した思考を伴う「書く(かく)活動」や目的のある「話し合い活動」を核とした授業づくりを推進する。また、「習得した知識・技能を活用できる終末の工夫」や「即時評価」の推進を図る。そのために、校内研修での授業観察指導を実施したり、「学力向上に向けた授業づくりの8つのポイント」や「書く活動ポイント9」を活用することができるように指導助言や支援を行ったりする。
  - ◆学力の根源をなす非認知能力の育成を推進する。そのために、「鍛ほめ福岡メソッド」の仕組みを機能させるよう指導助言を行う。